

10/541166

JC20 Rec'd PCT/PTO 30 JUN 2005

JP52-97814

2. Claims

A writing instrument holder adapted to fit in the hand of a user, wherein a concave depression is formed thereon in such a manner as to extend from the lateral surface of one side of the holder to the front thereof; at least two or more concave depressions are formed in such a manner as to extend from the lateral surface of the other side of the holder to the front thereof; and a through-hole is formed therein in such a manner as to extend from the upper back surface of the holder to the front surface thereof to define an opening at each of the both ends of the through-hole, for inserting a writing instrument thereto to thereby protrude the front and rear portions of the writing instrument toward the outside, whereby fingers of the user closely contact and encirclingly support predetermined portions of the holder so as to enable the user to take a correct writing motion.

⑨日本国特許庁
公開特許公報

⑪特許出願公開
昭52—97814

⑤Int. Cl.²
B 43 K 23/00

識別記号

⑥日本分類
118 A 9

庁内整理番号
6777—25

④公開 昭和52年(1977)8月17日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑤筆記矯正具

②特 願 昭51—13727
②出 願 昭51(1976)2月10日
⑦発 明 者 高嶋嶺

大阪市西区本田町4丁目5番地

の19
⑩出 願 人 高嶋イツ子
大阪市西区本田町4丁目5番地
の19
⑦代 理 人 弁理士 川口義雄

明 細 書

1. 発明の名称

筆記矯正具

2. 特許請求の範囲

一方の側面から正面にかけて1個の凹部を設け、他方の側面から正面にかけて少なくとも2個以上の凹部を設けた物に、上背面から正面にかけて貫通しかつ筆記具状の物を挿入することのできる穴を穿設し該穴に筆記具状の物を挿入し、又は該穴の2個所の開口部に相応する部分より筆記具状の楔状体を突出させ、かかる構造体の所定の位置を密着維持することにより正しい筆記が可能になるように成型した筆記矯正具。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、幼児学童が筆記具を正しく持てるように成型した構造体に係り、更に詳しくは本発明の構造体を幼児学童が密着維持することにより、容易に正しく筆記具を持つことが出来るようにし

た筆記矯正具に係る。

幼児学童が初めて筆記具を持ち文字又は絵を書き始める時、幼児学童に正しい筆記具の持ち方書き方を教示する事は困難を極め、多大の労力を教示する者も幼児学童もかけてきた。また書き始めの時に付いた癖を矯正する事は、一層困難かつ多大の労力を伴うものである。しかし、従来適切な練習具矯正具がなかつたため、かかる問題点は指摘されつつも放置されてきた。

本発明は、幼児学童が筆記具の持ち方を正しく早く学べるために、また一度ついた癖を成人を介して容易に矯正できるように考えられたものである。

本発明は、筆記具を正しく持つ時に指、手の平、筆記具で作られる空隙相当部を握める構造体を使

に、上背面から正面にかけて貫通する穴5を穿設し、又は該穴5を穿設せずに該穴5の両開口部6、7から筆記具状の棒状体9、10をそれぞれ突出させて成型した構造体であることを特徴とする。

凹部1、2、3、4を含む該構造体本体は、穴5に鉛筆・ボールペン・万年筆・毛筆等の筆記具を挿入し筆記に供する時、該構造体本体の所定の位置に指先・指の腹・手の平を密着に接し握持することにより正しく筆記具を持てるように作られる。

穴5を有する構造体については実際に筆記具を挿入して文字または絵面を書ける利点を持つが、突出部9、10を有する構造体も構造体本体を握れば正しい筆記具の持ち方の習得が可能のように作られ、学校等に備えれば恒久的に持ち方指導に供することが可能である。

右利き、左利きにより該構造体本体の左右の位置関係が、また指、手の平の大きさにより該構造

体本体の大きさ・形状が、また鉛筆・ボールペン・万年筆・毛筆等の筆記具の相具により該構造体本体の凹部1、2、3、4穴5の位置が異なることが予想される。

該構造体の材質は、木材・金属・合成樹脂等いずれであつても構わないが、重くなく一定の弾力性がある物が好ましい。弾力性がある材質であるならば該構造体本体を握持し現実に文字や絵面を書く時に適度の変形をもたらすことが出来、無理なく使用することもでき、また筆記具を挿入後密着嵌合することも容易となる。弾力性ある材質は消しゴムであつても良く、消しゴムであれば筆記具の正しい持ち方を把握した後、本来の使用に供することが出来無駄がない。また、構造体の所定の凹部を使用者の個人差に応じて簡単に微調整できる（例えば消しゴムのように表面を擦ることにより凹部を削れる）材質であつても良い。

穴5の口径は通常の筆記具の挿入、密着嵌合が

可能であれば十分でその形状は丸形・角形・六角形等いずれであつても構わない。

今、図面に示した実施例を説明すると、右利きの幼児学童が筆記を始める時に最も一般的に使用される鉛筆の持ち方に最も適切な形状と、その使用態様を示したものである。

鉛筆の筆先を正面とすると、右側面上部から正面右方上部にかけて、幾分下向きに鉛筆を正しく持つ時の親指の腹部を密着できるように凹部1を設け、左側面上部から正面左方中部に幾分下向きに鉛筆を正しく持つ時の人指し指の腹部を密着できるように凹部2を設け、左側面中部から正面左方中部に幾分下向きに鉛筆を正しく持つ時の中指の腹部を密着できるように凹部3を設け、左側面下部から正面下部にかけて鉛筆を正しく持つ時の薬指の腹部を密着できるように凹部4を設ける。なお、凹部4の下部に小指の腹部を密着できるように凹部を設けてもよい。該凹部の中で凹部1、2、3

は鉛筆を持つ上で必須の部分である。

次に、上背面から正面にかけて適当な傾斜角を持つ穴5を穿設する。該穴5の上開口部6は鉛筆を正しく持つ時に鉛筆が親指の根元と人指し指の根元の間に接する位置に設けることが望ましく、該穴5の下開口部7は凹部1と凹部2が交接し、かつ凹部3の正面部の上接部に設けられることが、すなわち鉛筆を正しく持つ時の親指・人指し指・中指と鉛筆との接点より幾分後方に設けられることが望ましい。

（以下 余 白）

また上開口部6の下部に、すなわち該構造物背面に正しく鉛筆を持つ時の手の平の部分密着できるような彎曲部8を設けてもよい。

なお、第3図は該穴5の開口部6, 7より突出部9, 10を成形して設けたもので、該穴5に鉛筆を挿入した場合と同様に作られている。

このように本発明は、正しく筆記具を持つ時に指・手の平・鉛筆で作られる空隙相当部をあらかじめ物理的に成形した構造物である故に、幼児・学童に筆記具の正しい持ち方を教えるにあたり、従来は言葉と視覚に頼らざるを得なかつた教授法における困難性・労力を軽減することができる。すなわち幼児学童に該構造物本体を握持させることにより、物理的・肉体的・感覚的に正しい持ち方を練習・自習させる顕著な効果を持つ。

また、誤まつた持ち方の癖を有する人は該構造物を握持して文字、絵画を書くことにより自然に無理なく誤つた癖を矯正することができる。

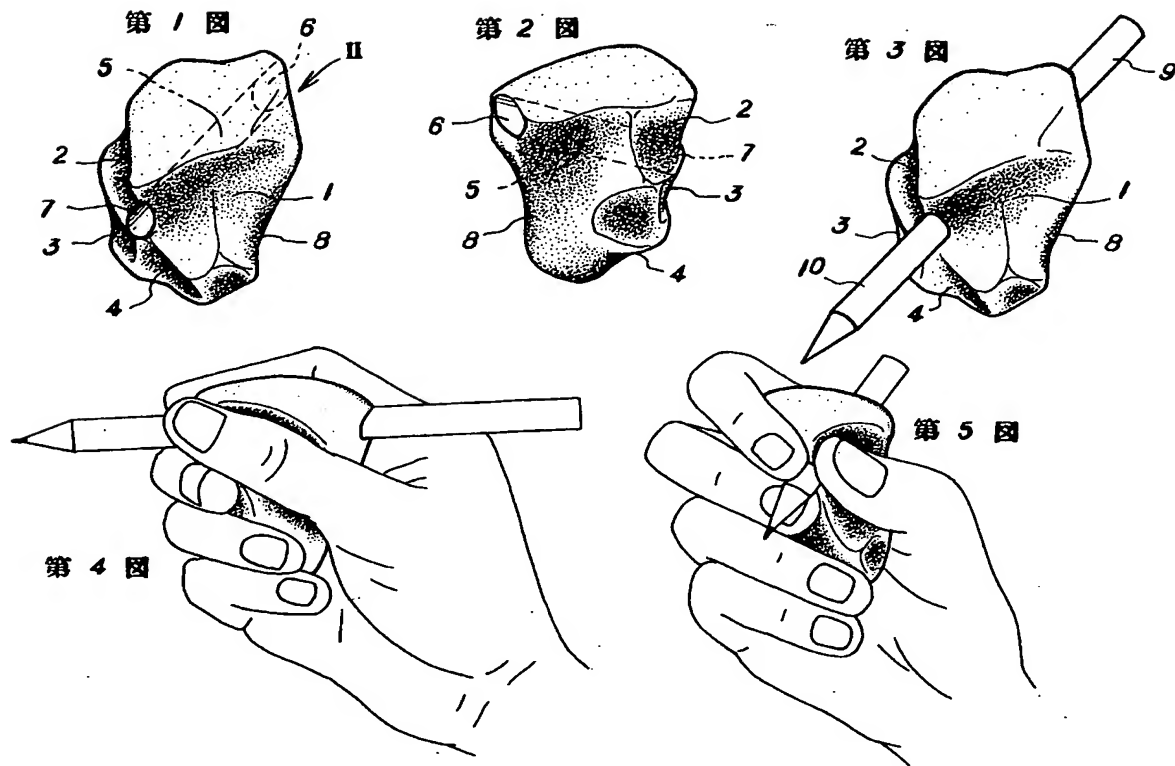
なお、該構造物で筆記具の正しい持ち方を完全に把握したならば、箸の正しい持ち方を習得できる附随的效果も生ずる。すなわち箸を持つ時の一方の箸、通常の持ち方では上方に存する箸は親指・人指し指・中指で操作され、筆記具を持つ時と極めて近似的な動作が行なわれる。しかも、かかる上方に存する箸は食物を挟む上で下方の箸より重要であり、かつ動作の習得も難かしいものである。従つて、初めて箸を持つ乳児に当該筆記具正具を持たせ、顔なり内なりを描かせる練習をしたならば、箸の正しい持ち方を習得する上で顕著な好影響を与える。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示すもので、第1図ないし第3図は実施例⁽⁵⁾、第4図、第5図は使用態様を示し、第1図は実施例の斜視図、第2図は第1図のII矢視図、第3図は突出部8, 9を有する実施例の斜視図である。

1, 2, 3, 4…凹部、5…穴、6, 7…開口部、9, 10…突出部。

出願人 高 島 イ ッ 子
代理人 川 口 義 雄



BEST AVAILABLE COPY